

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03372

研究課題名（和文）東アジア美術における仏伝の表象

研究課題名（英文）Representation of the Life of the Buddha in East Asian Art

研究代表者

稲本 泰生（INAMOTO, YASUO）

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：70252509

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,500,000円

研究成果の概要（和文）：仏伝（釈迦の一代記）の物語、その舞台となった聖地、釈迦関係の聖遺物などにまつわる仏教徒の営為と文物の関係を、主に東アジアの具体例に即して検証し、歴史上に位置づけた。中国で6度、インドで1度、文化財調査を実施して資料蒐集にあたり、ボードガヤーにおける中国人の奉獻品に関する代表者の研究など、主要な成果の一部を学術誌・論集などで刊行した。また期間中、ワークショップを5度、国際研究集会を1度、公開で開催して研究成果を発信した。その多くは、稲本泰生編『釈迦信仰と美術』（思文閣出版、2022年刊行予定）掲載の論考13編に反映されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

仏伝（釈迦の伝記）に関係する様々な事象と仏教徒の営為の関係性を、東アジアを中心とする文物の実作例から読み取り、歴史上に定位する研究を積み重ねた。釈迦信仰の歴史性と超歴史性の問題、及びその東アジア的展開を論点に含み、当該領域の研究水準を深化させる多数の成果が創出され、一部は龍谷ミュージアムの展示と図録（2018）にも反映された。中国宋代の舍利信仰と皇権の関係や、釈迦開悟の地ボードガヤーに中国人僧が奉獻した品を扱った代表者の研究（2017・2019年刊）などは、日本美術史・仏教史の領域からも大きな反響があった。

研究成果の概要（英文）：This project has focused on the research question how the Buddha's life story, as well as sacred places and reliquaries related to it, found their echoes in the art objects of East Asia. Some specific objects have been investigated in the frame of this project and newly contextualized into the cultural history of Buddhism. Several surveys at sites and museums (six times in China, once in India) have been conducted to collect research materials. A part of major research results, including the study on Chinese votive offerings in Bodhgaya by the principal investigator, was published in academic journals and other volumes. During the project, five workshops and one international research meeting were held in public to disseminate research results of the project members. Most of the results can be found in 13 articles included in the monograph *Shaka Shinko to Bijutsu* (Kyoto: Shibunkaku Shuppan, 2022), edited by Yasuo Inamoto.

研究分野：東アジア仏教美術史

キーワード：仏伝 東アジア美術 表象

## 1. 研究開始当初の背景

インド以来各地域に豊富な作品が遺る仏伝美術は、仏教美術の東漸を横断的に把握する上で最も重視すべき研究対象の一つである。先行研究では「物語の内容及び依用テキスト」「図像の系譜」「地域による表現法の差異」などの解明に重点がおかれてきたが、代表者はこれらの視点に加え、一部の仏伝美術作品が備えている、①「尊像としての側面が説話性を凌駕している事例」、②「説話（教訓的な内容）による行動規範（戒律や倫理道德など）の伝達を、機能として内包している事例」という側面に注目し、当該領域の研究に新生面を開く論考を発表してきた。

近年、東アジア的視野に立った「仏伝をめぐる営為の歴史的展開」の研究が、主に古代中世の日本文学の領域で著しく進展している。一方で美術史学においても、奈良～平安朝の釈迦信仰の絵画における図像引用の意味を、儀礼との関係から解明した研究や、釈迦讃歎の場において、作品とテキストの相互作用で顕在化する「仏伝にまつわるイメージ」の構造を、実作品に即して読み解く研究などが登場している。代表者による上掲の成果も含め、かかる新動向は「仏伝にまつわる作品の基づくイメージ、及び呼び起こすイメージを、当時の人々の感覚や思考様式と関連づけて浮かびあがらせる」という問題意識を共有している。この問題意識はより広範な対象に適用でき、「表象」をキーワードに個々の研究の方向性を統合・体系化することで、東アジアにおける仏伝美術の歴史的・地域的展開を、動的に跡づけることが可能となると考えるに至った。

平成25年度から27年度にかけ、代表者は科研費による基盤研究「東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態」を主宰し、研究の過程で国内外における遺跡・作品調査を行ってきた。仏教の聖地は釈迦の生涯と不可分の関係にあり、この「聖地表象」プロジェクトで得た資料と知見を活用することで、東アジアの仏伝美術にまつわる諸事象の解明が、大きく前進することが期待された。以上のような蓄積と経験を核に、仏教美術史及び隣接領域の研究者の協働のもと、東アジア美術における仏伝表象について系統的な調査研究を行うことで、当該地域の仏教美術の特質と展開を、深層から理解する手掛かりが得られると考え、本研究を構想した。

## 2. 研究の目的

本研究は東アジアの仏教美術において、仏伝にまつわる作品群と、これを制作・受容する主体との間に結ばれた関係の諸相を包括的・体系的に究明し、歴史的に跡づけることを目標としている。主な対象は中国南北朝～宋代に対応する時期の絵画・彫刻作品であるが、仏伝そのものを造形化した作品のみならず、仏伝および仏伝美術の翻案・転用によって成立している美術作品や、「像を手掛かりに仏伝をイメージする」営為なども含めて検討を行うこととした。信仰に内在する視覚表象と作品の関係や、仏教文化の普遍性と地域性との関係を明確化する視点を獲得し、当該地域の仏教美術の本質を深層から把握すべく、留意したのは以下の諸点である。

A. 「東アジア美術における仏伝表象」の様態を、包括的にとらえるための枠組を構築する。東アジア仏教特有の空間・時間表象（「インドの釈迦」と遠く隔たっているという意識）を反映した聖地観念や舍利荘厳と、仏伝表象の間に結ばれている関係性を可視化することは、本研究における最大級の課題である。基本は個々の具体例の観察と分析であるが、「釈迦という存在の両義性」（歴史性と超歴史性、具体性と抽象性）、「作品の機能の二側面」（物語の説明＝説明性）と「礼拝の対象＝現前性」などを評価軸にした検討を積み重ね、全体的な傾向を明らかにする。

B. 「仏教を介した文化交流」という観点から、美術における仏伝表象の地域による共通項・差異を動的に把握し歴史的に跡づける。主に南北朝～両宋の中国及び並行期の朝鮮半島・日本の事例を扱うが、前史をなすインド・ガンダーラ・中央アジアの事例との比較も重視する。

C. 仏伝図像の典拠を、経典だけでなくその節略版など、より普及度の高いテキストとの関係を重視してさぐり、図像の源泉となったイメージの形成・伝承・普及の過程を究明する。また仏教説話に取材した近代日本美術の作品と前近代東アジアの作品を「仏伝表象の構造」という観点から比較検討するなどし、今日的な意義を併せ持つ新たな研究領域の開拓を試みる。

### 3. 研究の方法

(1)上述の目的に沿った研究を効果的に遂行し、可能な限り広範囲にわたる問題をカバーできるよう、研究分担者・連携研究者・研究協力者を選定して研究組織を構成し、それぞれの所属機関や専門分野に応じて配置した。「博物館を拠点に仏教彫刻・絵画の研究に従事している者」、「文物を介した文化交流史の視点から、東アジア仏教美術の調査研究を進める上で有益な発言ができる者」、「美術史学以外、ことに考古学・仏教学の観点から出土資料や仏教文献の扱いについて助言できる者」などがその内訳である。

(2)京都大学人文科学研究所を拠点として、本研究課題に関係する文化財に関する既存の資料(写真資料・調査記録・関連文献など)の蒐集・整理・体系化を行うとともに、未収蔵の資料(図書・雑誌などを含む)の購入などによる補充を行い、研究拠点としての機能の充実を図った。

(3)本研究を遂行するための資料蒐集を効果的に行うべく、各年度のべ10名程度を中国に派遣(5名程度の調査団を二回組織)する計画を立てた。調査は陝西・甘肅・山西・河南・河北・山東・江蘇・浙江・福建、以上各省の遺跡・寺院・博物館等において、また関連事例多数が展覧される特別展の機会を利用して、以下のような条件、すなわち、

- ①仏伝の全体ないし一部の物語を造形化した作例
- ②仏伝中の特定場面と結びつく礼拝像の作例(誕生仏、金剛座真容像、涅槃図等)
- ③仏伝の舞台となった聖地に関する作例
- ④仏塔や舍利荘厳具等、広義の釈迦信仰に関する作例

などを満たす品を、重点的に対象に選定した。さらに研究目的を遂行する上で特に必要と認められる場合は、他国の遺跡・資料(インドなど)についても調査を実施することとした。

(4)研究体制に所属する各研究者は各自の専門分野、及び(1)に示した研究組織における役割分担に沿って、「研究の目的」に掲げた諸問題の考究にあたる。考究は個人単位で常時進めるのが基本であるが、問題意識の共有を徹底して相互に活発な情報交換を行い、組織全体で実りある研究の推進に努めることとした。また少なくとも年一回は当該テーマに関する研究者による報告を含むワークショップを開催することとし、当該テーマをめぐる議論の深化と活性化を図った。

### 4. 研究成果

(1)東アジア美術における仏伝表象というテーマに関係の深い作品群や遺跡を選定し、これらを対象に主に中国で調査活動を展開し、蒐集した資料(主に画像)の蓄積と整理及び検討にあたった。これが四年間(結果的に六年間)に及んだ研究の支柱である。その中で特に組織的に取り組んだもの、及び顕著な成果を挙げたものを以下に列挙し、経過と実績を示す。

(2)28年8~9月にかけての11日間、中国陝西・甘肅省に4名を派遣して遺跡・遺物調査を実施した。調査地は彬県大仏寺(咸陽市)、北石窟寺、隴東古石刻博物館(慶陽市)、王母宮石窟、南石窟寺、涇川大雲寺博物館、涇川博物館、平涼博物館、(平涼市)、須弥山石窟(固原県)、大像山石窟、天水市博物館、麦積山石窟、水簾洞・千仏洞・拉梢寺石窟(天水市)、炳靈寺石窟(永靖県)、甘肅省博物館(蘭州市)である。この調査では仏伝表象に関わる彫刻・絵画等のほか、北朝隋唐時代の舍利信仰に関連する遺物に関する資料を重点的に蒐集することができ、その成果は増記2017、西谷2021、内記2021にも反映された。ついで29年3月には7日間、中国福建省及び上海市・浙江省に3名を派遣して遺跡・遺物調査を実施した。調査先は福建博物院(「梵天東土」展の出陳品)、崇妙保聖堅牢塔、定光塔、福州開元寺(福州市)、赤岸鎮、建善寺(寧徳市)、開元寺、洛陽橋、泉州博物館(泉州市)、上海博物館(主に青龍鎮遺址出土文物展)、浙江省博物館、白塔(杭州市)などである。この調査では江南各地の阿育王塔など、仏伝・本生を中心とする仏教説話と舍利信仰、そのいずれにも関係する作品群について、多くの資料を蒐集蓄積できた。成果は稲本2017及び田中健一による2019年刊行の二篇の論文、などに反映された。

(3)29年度も中国で二度の調査を行った。第一回は8~9月にかけての11日間、中国陝西省に4名を派遣して実施した。調査地は耀州博物館、菓王山石窟、玉華宮(銅川市)、黄陵万安禅院、石泓寺石窟、富県大仏寺石窟、鐘山石窟、清涼山石窟、樊荘石窟、安塞大仏寺石窟(延安市)、陝西歴史博物館、西安碑林博物館、西安博物院(西安市)である。この調査では北朝期の誕生・降魔図像の代表作を擁しながらも日本で紹介されることがなかった安塞大仏寺や、北宋期の涅槃関連図像を軸にした研究資料収集を行うことができた。その成果は稲本2018、同2019、西谷2018「釈迦への思慕とその儀礼」、増記2021などに反映された。

第二回は3月に5日間、山東省に3名を派遣して実施した。調査地は玉函山石窟、五峰山、山東博物院、千仏山石窟、黄石崖摩崖、神通寺、靈巖寺(済南市)、泰山経石峪、玉皇頂、岱廟(泰安市)である。宋代を代表する仏教説話浮彫の一つであり、内容的に仏伝図とも深く関係する、靈巖寺辟支塔の阿育王伝浮彫について、資料を蓄積できたことは特に意義深い。

(4)30年度は中国とインドで各一回、計二度の海外調査を実施した。第一回は8～9月にかけての16日間、河北省・山西省・上海市等に4名を派遣して仏伝関連文物などを調査した。調査地は首都博物館（北京市）、河北博物院、趙州陀羅尼石幢、正定隆興寺、天寧寺、臨濟寺、広恵寺、（石家荘市）、静志寺、浄衆院、定州石刻館、定州市博物館、曲陽修徳寺、八会寺（保定市）、五台山[竹林寺、台懐鎮、金閣寺、清涼寺、仏光寺、南禅寺]、繁峙巖山寺、忻州博物館、大溝湾石窟、金洞寺（忻州市）、山西博物院、山西大学北齊墓発掘現場、晋祠（太原市）、方塔園、松江博物館、上海博物館（上海市）、報恩寺、玄妙観、蘇州博物館（蘇州市）である。この調査では舍利信仰関係の遺品や、五台山周辺の絵画作例中の仏伝図像について、重点的に資料蒐集を行うことができ、その成果は西谷2021、内記2021などに反映された。

第二回は1月にインドに2名を派遣して9日間、コルカタ・インド博物館、パトナ・ビハール博物館、ボードガヤーの遺跡及び博物館、ナールンダーの遺跡及び考古博物館、ニューデリー国立博物館で東アジアの仏伝表象と関連する作品群を調査し、研究資料の蒐集・蓄積を行った。この調査が、本研究の中心的成果の一つである稲本2019の骨格をなしている。

(5)R1年度は8～9月にかけての13日間、中国河南省・河北省・山西省・北京市に4名を派遣して実施した。調査先は開宝寺、大相国寺、開封博物館（開封市）、摘星台、淇県石仏寺、浚県大仏寺、碧霞宮（鶴壁市）、修定寺、小南海石窟、宝山靈山寺、（安陽市）、鄴城博物館、仏造像館、鄴城寺院跡、邯鄲市博物館、南響堂山石窟、北響堂山石窟、水浴寺石窟、木井寺、媯皇宮（邯鄲市）、大雲院、法興寺、崇慶寺、南王慶石窟（長治市）、開化寺、羊頭山石窟（高平市）、龍門石窟、水泉石窟、偃師商城博物館（洛陽市）、中国国家博物館（北京市）である。仏伝図像を含む北朝期の碑像群など、彫刻・絵画を中心に、釈迦信仰に関わる研究資料を多数蒐集した。その成果は谷口2021などに反映された。

(6)海外調査以外に行った研究活動としては、研究期間中各年度一回ずつ、京都大学人文科学研究所（うち一回は東京大学東洋文化研究所）を会場として実施したワークショップが挙げられる。各回とも30名以上の参加者があり、活発な討論が行われた。

第1回は28年12月23日、大原嘉豊（研究分担者）が「釈迦金棺出現図（京都国立博物館）に関する問題」、田中健一（連携研究者）が「5～8世紀東アジアの涅槃表象と仏身観」と題し報告を行った。いずれも仏伝美術としての側面をもつ涅槃関係の作品を扱った充実した内容であった。

第2回は29年7月28日に東京大学東洋文化研究所を会場として実施し、西谷功（研究協力者）が「いわゆる「苦行釈迦」像とその儀礼」、中野慎之（同）が明治後期の仏伝図—近代日本画の形成と仏教」と題する報告を行った。中国南宋時代と日本の鎌倉時代、及び日本近代における仏伝図像の源泉や機能的側面をめぐる最先端の成果が示された。

第3回は29年12月23日、ドイツから招聘した外村中氏（ヴェルツブルク大学）が「いわゆる「仏陀なき仏伝図」に表現された仏陀と声聞乗（有部および大衆部）の仏身論について」、内記理（連携研究者）が「ガンダーラ地方浮彫画像帯にみる仏伝図像変容の諸段階」と題する報告を行った。インド及びガンダーラにおける仏伝図の特徴と成立基盤が包括的に検討され、精度の高い基礎研究の成果が示された。

第4回は30年12月23日、稲本が「10～11世紀の中印交渉と仏教美術—ブッダガヤへの奉獻行為から」、増記隆介（連携研究者）が「「応徳涅槃図」再考—原本の存在とその絵画史的位」と題する報告を行った。仏伝関係の文物から五代～北宋並行期の仏教美術の動向を捉え直す、本科研の核心に触れる報告であった。

第5回はR1年7月27日、岩井共二（研究分担者）が「仏従何出生／ブッダはどこから出生したか—ブッダイメージの中国化をめぐる」、谷口耕生（同）が「達磨寺本仏涅槃図をめぐる—図像の問題を中心に」と題する報告を行った。東アジアにおける釈迦の像表現と涅槃図像に関する、（当初計画における）最終年度に相応しい発表内容となった。

またR1年6月2日には、科研「グプタ朝以降のインド仏教の僧院に関する総合的研究」（代表者・三重大学・久間泰賢氏）等のプロジェクトと共催で、京都大学人文科学研究所にて国際研究集会「インドの女神信仰」を実施した。来日中のマイケル・ウイリス氏（大英博物館）が「ブッダの生涯と"悟りの光"としての女神マーリーチー[摩利支天]」と題する研究報告を行い、30名以上の参加者を得て討論が行われた。

(7)28年8月に2日間にわたり、京都大学文学部美学美術史学研究室所蔵の西域絵画模本の調査を実施した。この模本群は仏伝関係の作品多数、また原図が戦災で失われた作例を含む貴重な文化財である。この両日に53点全点を実査のうえ写真撮影を行い、蒐集した資料の一部は、10月に京都大学で実施された京都・スイスシンポジウムにおける、研究代表者の研究発表に活用された。

(8)30年度には、研究代表者の稲本が客員研究員をつとめる龍谷ミュージアムで開催された特別展「お釈迦さんワールド—ブッダになったひと」（4月21日～6月17日）の図録及び関連企画において、研究成果の一部を公表した。図録に稲本及び西谷功（研究協力者）が論考を、板倉聖哲（研究分担者）及び西谷が作品解説を寄稿した。同時に稲本が記念講演（5月27日）を行い、

美術史学会との連携によるシンポジウム（4月28日）で西谷及び田中健一（連携研究者）が研究発表を行った。いずれも東アジアの仏伝表象を扱った内容で、本科研の過去二年間の調査等で得た知見が反映された。

(9)コロナ禍のため延長された研究期間（R2～3年度）、ワークショップ発表者を中心にメンバーは論考の執筆を進め、2022年中に13篇で構成される論集『釈迦信仰と美術』（約570ページ、思文閣出版）が刊行される。各編の題目とタイトルは以下のとおり。①いわゆる「仏陀なき仏伝図」に表現されたブッダと声聞乗（有部および大衆部）の仏身論について（外村中）、②南アジア初期仏教美術における聖地表象—仏伝図との関係を中心に—（島田明）、③「聖地と光の幻影—女神マーリーチーをめぐって」（マイケル・ウィリス、稲本泰生・高橋早紀子訳）、④ガンダーラ地方における初期の仏伝図の探究—ラニガト寺院址出土浮彫画像帯の分析から（内記理）、⑤安塞大仏寺四号窟の図像構成の意義と北朝期の仏伝表象（稲本泰生）、⑥仏従何出生—ブッダイメージの中国化と二元化（岩井共二）、⑦草座釈迦像とその儀礼—宋元江南仏教儀礼の中世日本への伝播（西谷功）、⑧一休宗純賛「苦行釈迦図」の図像的淵源（板倉聖哲）、⑨（中野慎之）、⑩初唐期および奈良時代の涅槃表象と涅槃観（田中健一）、⑪京都国立博物館蔵釈迦金棺出現図に関する諸問題—主題の観点を中心に（大原嘉豊）、⑫「応徳涅槃図」再考—原本の存在とその絵画史的位置（増記隆介）、⑬達磨寺本仏涅槃図をめぐって（谷口耕生）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 稲本泰生	4. 巻 94
2. 論文標題 ボードガヤー出土の10-11世紀漢文石刻史料と訪天僧の奉献品	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東方学報	6. 最初と最後の頁 540-498
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/250691	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 谷口耕生	4. 巻 3
2. 論文標題 五代・北宋期における熾盛光道場本尊図像の形成と伝播-温州白象塔星宿神塑像をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 板倉聖哲・塚本磨充編『アジア仏教美術論集 東アジア3（五代・北宋・遼・西夏）』中央公論美術出版	6. 最初と最後の頁 223-264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増記隆介	4. 巻 なし
2. 論文標題 大徳寺五百羅漢図の母胎としての呉越絵画 日本伝来の白描図像を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 九州大学人系学際融合リサーチハブ形成型研究報告書『徹底討論 大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ』九州大学	6. 最初と最後の頁 33-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中健一	4. 巻 2
2. 論文標題 法隆寺金堂木造天蓋をめぐる諸問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都美術史学	6. 最初と最後の頁 35-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中健一	4. 巻 6
2. 論文標題 東大寺誕生釈迦仏立像と奈良時代の仏誕観	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『古代寺院の芸術世界 古代文学と隣接諸学 6 』竹林舎	6. 最初と最後の頁 114-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内記理	4. 巻 2019年度
2. 論文標題 唐宋期の石製棺形容器についてー羽田邸に伝来した新例の分析から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都大学構内遺跡調査研究年報	6. 最初と最後の頁 157-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 3
2. 論文標題 唐宋代における仏牙舍利の 発見 ー道宣伝持の仏牙を中心にー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 板倉聖哲・塚本磨充編『アジア仏教美術論集 東アジア3 (五代・北宋・遼・西夏)』中央公論美術出版	6. 最初と最後の頁 185-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 4
2. 論文標題 祖師像と宋代仏教儀礼 礼讃文儀礼を視座として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 板倉聖哲・塚本磨充編『アジア仏教美術論集 東アジア4 (南宋・大理・金)』中央公論美術出版	6. 最初と最後の頁 411-450
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲本泰生	4. 巻 -
2. 論文標題 中国の仏伝美術と釈迦信仰 - 北朝石窟の事例を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 特別展図録『お釈迦さんワールド-ブッダになったひと』（龍谷ミュージアム）	6. 最初と最後の頁 213 - 219
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中健一	4. 巻 -
2. 論文標題 本生図の変容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 肥田路美編『アジア仏教美術論集 東アジア 隋・唐』（中央公論美術出版）	6. 最初と最後の頁 289 - 318
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 釈迦への思慕とその儀礼 宋代仏教の視点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 特別展図録『お釈迦さんワールド-ブッダになったひと』（龍谷ミュージアム）	6. 最初と最後の頁 220 - 229
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 -
2. 論文標題 草座釈迦とその儀礼 泉涌寺を事例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 特別展図録『お釈迦さんワールド-ブッダになったひと』（龍谷ミュージアム）	6. 最初と最後の頁 144 - 146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷功	4. 巻 85-10
2. 論文標題 舍利 泉涌寺との関わり	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『観世』	6. 最初と最後の頁 26 - 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野慎之	4. 巻 -
2. 論文標題 近代画家の参禅	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 特別展図録『釈宗演と近代日本 若き禅僧、世界を駆ける』(臨済宗大本山円覚寺、慶應義塾大学)	6. 最初と最後の頁 182 - 185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲本泰生	4. 巻 第15号
2. 論文標題 裔然入宋と「釈迦信仰」の美術 - 南京大報恩寺址出土品を参照して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 論集 日宋交流期の東大寺 - 裔然上人一千年大遠忌にちなんで - (ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集)	6. 最初と最後の頁 29-51頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉聖哲	4. 巻 43号
2. 論文標題 「出山釈迦」と「草座釈迦」- 釈迦画像をめぐる二三の問題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 法華文化研究	6. 最初と最後の頁 60-85頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井共二	4. 巻 東アジア
2. 論文標題 中国式仏像の出現	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア仏教美術論集 東アジア (濱田瑞美編、中央公論美術出版)	6. 最初と最後の頁 137-160頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大原嘉豊	4. 巻 第44冊
2. 論文標題 説磨派の問題－勝賀を中心に－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『平安時代後期を中心とした絵師の工房をめぐる諸問題』公益財団法人仏教美術研究上野記念財団	6. 最初と最後の頁 11-17頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中健一	4. 巻 782
2. 論文標題 本生譚の美術とその意味	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 四天王寺	6. 最初と最後の頁 2-6頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増記隆介	4. 巻 第15号
2. 論文標題 奄然が見た唐宋絵画 平安後期絵画史の前提として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 論集 日宋交流期の東大寺 - 奄然上人一千年大遠忌にちなんで - (ザ・グレートブッダ・シンポジウム論集)	6. 最初と最後の頁 53-67頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤岡 穰	4. 巻 208
2. 論文標題 曹仲達様式の継承 鎌倉時代の仏像にみる宋風の源流	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 42-54頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷 功	4. 巻 1458
2. 論文標題 泉涌寺の文化財 儀礼と信仰の視点から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 國華	6. 最初と最後の頁 21-26頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西谷 功	4. 巻 特別展図録
2. 論文標題 仏牙舍利、韋駄天、普陀山観音と宋代仏教文化 泉涌寺僧による「唐物」の請来と展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 唐物 KARA-MONO (神奈川県立金沢文庫)	6. 最初と最後の頁 97-102頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲本 泰生	4. 巻 1451
2. 論文標題 雲岡石窟の仏教説話浮彫ー本生・因縁図を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 國華	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 船山徹	4. 巻 2
2. 論文標題 《大方便仏報恩經》編纂所用引的漢訳經典	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『仏教文献研究』（方廣しょう主編）	6. 最初と最後の頁 175-202
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 谷口耕生	4. 巻 1
2. 論文標題 極楽寺忍性による東征伝絵巻の施入をめぐる	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『忍性 救済に捧げた生涯』特別展図録	6. 最初と最後の頁 218-221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤岡穰	4. 巻 89
2. 論文標題 中国南朝造像とその伝播	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 美術資料	6. 最初と最後の頁 216-264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 内記理	4. 巻 1
2. 論文標題 ガンダーラ彫刻の制作時期について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宮治昭編『アジア仏教美術論集 中央アジア ガンダーラ～東西トルキスタン』	6. 最初と最後の頁 57-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計34件（うち招待講演 31件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 稲本泰生
2. 発表標題 北宋真宗期の仏教美術と三教理解 - 舍利莊嚴を中心に
3. 学会等名 国際ワークショップ「中国三教と日本神道の「見える」ものや「見えない」もの」京都大学人文科学研究所（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増記隆介
2. 発表標題 後白河院時代の絵画制作と宝蔵
3. 学会等名 仏教文学会シンポジウム「後白河院時代の文芸と文化 唱導・和歌・美術」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増記隆介
2. 発表標題 後白河院崩御後の蓮華王院宝蔵絵 宝蔵絵の去就をめぐる諸問題
3. 学会等名 シンポジウム「宝物とそのいれもの」東京大学（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内記理
2. 発表標題 旧羽田邸に伝来した中国唐宋期の棺形容器について
3. 学会等名 第85回羽田記念館定例講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 明恵撰『涅槃講式』成立の背景 - 俊ジョウ請来の宋代涅槃儀礼の視点から
3. 学会等名 日中韓国際シンポジウム「東アジア仏教思想史の構築 - 凝然・明恵と華嚴思想」龍谷大学（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 宋式仏堂空間の荘嚴 - 泉涌寺を事例に
3. 学会等名 「室町水墨画における中国道釈画の受容」山口県立美術館
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中健一
2. 発表標題 靈鷲山を表象する空間
3. 学会等名 公開講座「空間を読み解く」大阪大谷大学博物館（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中野慎之
2. 発表標題 天平様式觀の形成
3. 学会等名 日本仏教綜合研究学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲本泰生
2. 発表標題 東アジアの仏教美術と聖地表象 - 10～11世紀中国人僧のボードガヤー巡礼に注目して -
3. 学会等名 第71回美術史学会全国大会シンポジウム「聖地巡礼」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 稲本泰生
2. 発表標題 中国の釈迦信仰と仏伝図
3. 学会等名 特別展「お釈迦さんワールド」（龍谷ミュージアム）記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中健一
2. 発表標題 唐代以前の中国の仏伝図
3. 学会等名 美術史学会・龍谷ミュージアム共催記念シンポジウム「開祖の生涯の可視化と儀礼空間」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 釈迦をめぐる儀礼とその空間
3. 学会等名 美術史学会・龍谷ミュージアム共催記念シンポジウム「開祖の生涯の可視化と儀礼空間」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 東アジアからみた鎌倉時代の戒律復興運動
3. 学会等名 龍谷大学BARC学術講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 祖師肖像画を用いる仏教儀礼とその荘嚴空間
3. 学会等名 International symposium: Display as an Ensemble Program (英国・セインズベリー研究所) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 増記隆介
2. 発表標題 Underlying the "Vision" of Heian Buddhist painting
3. 学会等名 Movement and Materiality in Japanese Art, Mary Griggs Burke Center for Japanese Art in Columbia University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大原嘉豊
2. 発表標題 韓国と中国と日本との関係から見た高麗時代の仏教美術
3. 学会等名 公開講演会 (韓国国立中央博物館) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 入宋僧のみた風景、もたらした中国文化
3. 学会等名 花園大学京都学講座2017 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 泉涌寺仏牙舍利と謠曲 舍利
3. 学会等名 能と仏教 研究会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 鎌倉時代における中国祖師肖像画の受容と宋式仏教儀礼
3. 学会等名 美術史学会東支部大会「唐物への新たな視線」 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西谷功
2. 発表標題 知られざる宋代天台の儀礼と文化
3. 学会等名 龍谷大学BARC第6回学術講演会「天台の思想と造形、文化、儀礼」 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 稲本泰生
2. 発表標題 The Reception of Transformed Avalokitesvara Images in East Asia in the Seventh and Eight Centuries
3. 学会等名 AAS (The Association for Asian Studies) -in-ASIA Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 稲本泰生
2. 発表標題 慶州石窟庵と韓日の摩崖造像
3. 学会等名 黒川古文化研究所第62回夏季講座「インド仏教美術の伝来と石窟寺院」(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 稲本泰生
2. 発表標題 中国唐代の国家権力と仏教美術
3. 学会等名 「大唐王朝展」講演会(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 稲本泰生
2. 発表標題 長谷川路可の西域壁画模本と澤村専太郎
3. 学会等名 Investigations into the Disciplines of Japanese and East Asian Art Histories:Exchanges between Japan and Europe, with a Focus on Switzerland, Kyoto-Swiss Symposium 2016 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 稲本泰生
2. 発表標題 齋然入宋と釈迦信仰の美術
3. 学会等名 第15回ザ・グレートブッダ・シボジウム「日宋交流期の東大寺」(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 谷口耕生
2. 発表標題 達磨寺所蔵仏涅槃図について
3. 学会等名 王寺町教育委員会講演会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 谷口耕生
2. 発表標題 中世日本における玄奘三蔵像の受容と展開
3. 学会等名 龍谷大学世界仏教文化研究センターアジア仏教文化研究センター学術講演会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤岡穰
2. 発表標題 Early Tang Image Production at Chang ' an ; A Reconstructive Consideration and the Reception of Indian Art
3. 学会等名 AAS (The Association for Asian Studies) - in-ASIA Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤岡 穰
2. 発表標題 河北白玉像と曹仲達様
3. 学会等名 仏光山仏陀記念館シンポジウム2017《仏・縁 - 河北曲陽白石仏教造像芸術展》学術研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 増記隆介
2. 発表標題 呉越国の絵画と日本
3. 学会等名 大和文華館「呉越国 西湖が育んだ文化の精粹」展記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 増記隆介
2. 発表標題 齋然が見た唐宋絵画 平安後期絵画史の前提として
3. 学会等名 第15回ザ・グレートブッダ・シポジウム「日宋交流期の東大寺」（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 田中健一
2. 発表標題 本生譚の美術とその意味
3. 学会等名 四天王寺仏教文化講演会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 田中健一
2. 発表標題 仏像への聖性付与
3. 学会等名 大阪大谷大学公開講座「聖なるもののイメージ」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 内記理
2. 発表標題 關於四个ケン陀羅銘文雕刻佛像的年代学
3. 学会等名 中垂仏教美術新織従巴米揚到ケン陀羅 講演会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 板倉聖哲・塚本磨充（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 700
3. 書名 アジア仏教美術論集 東アジア3（五代・北宋・遼・西夏）	

1. 著者名 板倉聖哲（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 686
3. 書名 アジア仏教美術論集 東アジア4（南宋・大理・金）	

1. 著者名 増記隆介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 236
3. 書名 天皇の美術史 第一巻 古代国家と仏教美術	

1. 著者名 西谷功	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 840
3. 書名 南宋・鎌倉仏教文化史論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	板倉 聖哲  (ITAKURA MASAAKI)  (00242074)	東京大学・東洋文化研究所・教授   (12601)	
研究分担者	岡村 秀典  (OKAMURA HIDENORI)  (20183246)	京都大学・人文科学研究所・教授   (14301)	
研究分担者	岩井 共二  (IWAI TOMOJI)  (50646213)	独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・その他部局等・室長   (84603)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	船山 徹  (FUNAYAMA TORU)  (70209154)	京都大学・人文科学研究所・教授    (14301)	
研究分担者	谷口 耕生  (TANIGUCHI KOSEI)  (80343002)	独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・その他部局等・室長    (84603)	
研究分担者	大原 嘉豊  (OHARA YOSHITOYO)  (90324699)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部保存修理指導室・室長    (84301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	西谷 功  (NISHITANI ISAO)		
研究協力者	田中 健一  (TANAKA KENICHI)		
研究協力者	中野 慎之  (NAKANO NORIYUKI)		
連携研究者	藤岡 穰  (FUJIOKA YUTAKA)  (70314341)	大阪大学・文学研究科・教授    (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	増記 隆介  (MASUKI RYUSUKE)  (10723380)	神戸大学・人文学研究科・准教授    (14501)	
連携研究者	内記 理  (NAIKI SATOSHI)  (90726233)	京都大学・文学研究科・助教    (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 国際研究集会「インドの女神信仰と仏教」	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 東アジア美術における仏伝の表象 第3回ワークショップ	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関